

世界醫學人名辭典

醫學博士

木 下 正 中

株式會社 醫學書院

世界醫學人名辭典

定 價 500.00

1950年10月30日 第1版第1刷發行
1950年11月5日 第1版第2刷發行
1952年7月10日 第1版第3刷印刷
1952年7月15日 第1版第3刷發行



著 者 木 下 正 中

發行者 金 原 元

發 行 所 株 式 醫 學 書 院 會 社

本 社 分 室

東京都文京區本郷6~20

東京都文京區駒込林町172

電話小 川(85)

電話駒込(82)

0741, 1470, 1773

0714

1201, 4078, 4079

1605

東京都本郷局私書函第5號 振替口座東京 96693

明善印刷株式会社印刷 Printed in Japan

醫學書院の發行同一雜誌書籍は10部御註文の場合は11部、20部御註文の場合は22部を納品致します。何卒この制度を御利用下さい

序

わが国には医学に関する人名を蒐集したものが少いようである。これに反して American Medical Dictionary や Guttman の Medicinische Terminologie などには、かなり多くの人名が記されておるので、ときどき大きな便利を感じることもある。

欧米の医学界の人名に加えて、和漢の人名を以てし、医学人名辞書をつくっておくことは、意義のないことであるまいと思つたので、医語用語整理の仕事にたずさわつておるかたわら、おもに上記の米独の2書と、そのほかの書物から、医学関係の人名をぬき書きして、この稿ができ上つた。

もちろん、老医学徒の閑を消すための仕事にすぎず、そのうえ参考書は戦災のために、ほとんど全く失つて、手もとには何も残つておらぬので、自分ながらも満足のできるものにはならない。しかし、せつかくの労作であるから、そのままに捨てておくのは惜しいなどと、親切に老人をあとおして下さる方もあつて、その親切に甘えて印刷を試みることにした。完全を期することができないことはいうまでもないが、これを土台にして立派な、役に立つものを作つてくださる方があらわれないとも限るまい。そのようなことを夢みて、ここにまとまつただけを、そのままに出版することにした。

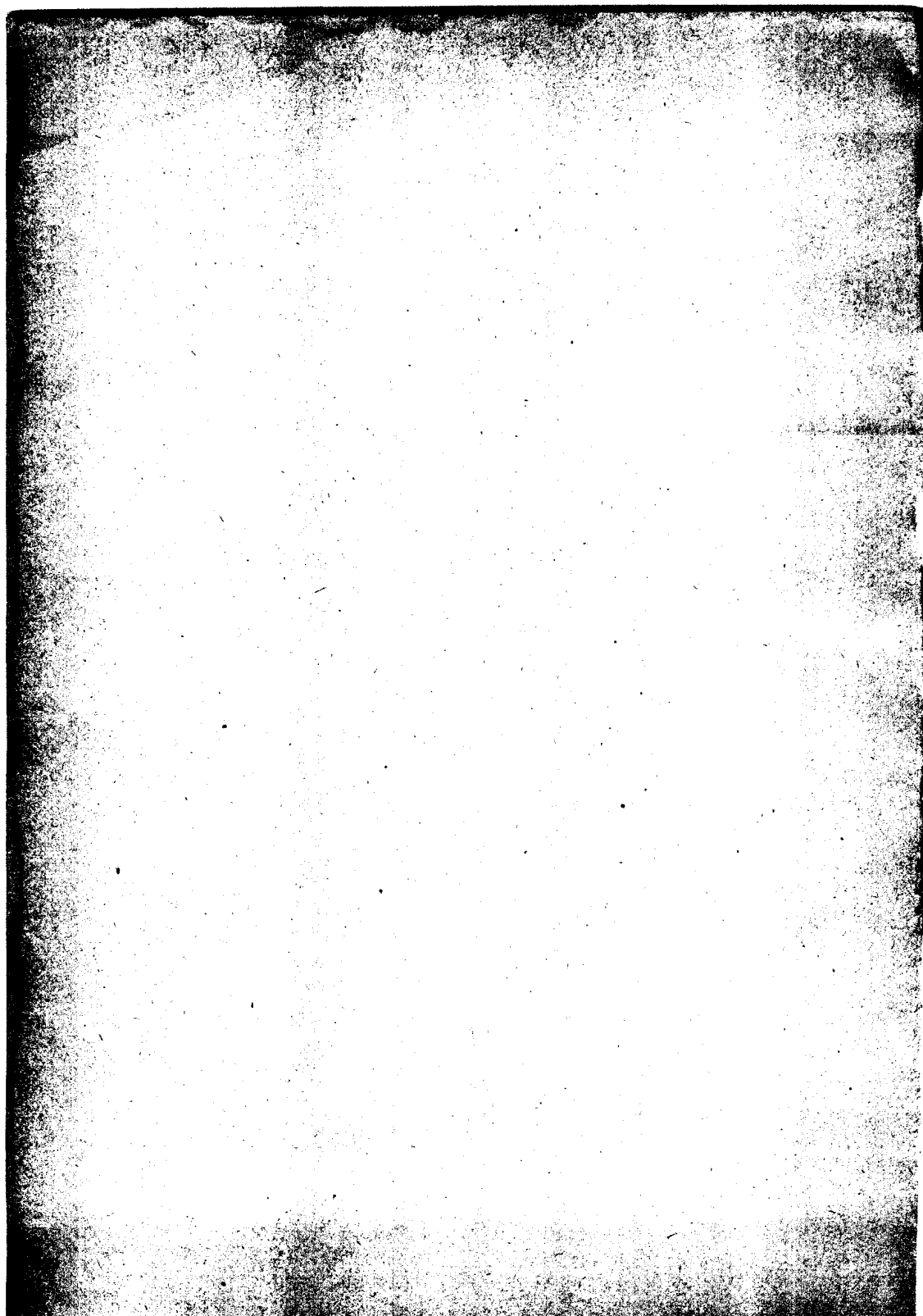
東大の長谷川教授（産婦人科教室）、緒方教授（血清学教室）から文献を貸していただき、久松栄一郎博士からは、出版について力添えをいただいた。皆さまの厚意にたいし深くお礼を申し上げます。

著 者

凡 例

1. 欧米人の姓名はおもに American Medical Dictionary 及び Guttman, Medicinische Terminologie から採録した。
2. 支那の人名はおもに陳邦賢氏著 支那医学史と 中国人名辞書からとつて、日本流の漢音で、ローマ字綴りに列べた。年代は多くは不明であつたから、姓名の後に○印のなかに漢、唐、明、清などのように時代を記した。
3. 日本の人名はおもに 富士川游氏の 日本医学史と、中野操氏の 日本医事大年表から採録した。
4. そのほかに参考することのできた文獻によつて改めたものもある。
5. 欧米人には誕生と死亡との年を記すようにつとめた。現とあるのはほぼ西暦1945年頃に生存しておつたことを示す。
6. 日本人では死亡の暦年を示しておるものが多い。そのすぐ次に () で示したものは死亡の年齢である。
7. 暦年の数字は西暦紀元によつた。
8. 著書そのほかのできごとに括弧の中に年数を示したものは、その出版または発表の年次である。
9. 書中の記事について、誤りを見出されたならば、教えをおしまれずに、知らせてくださるよう、願ひする。

日 本



A

- | | | |
|------------------|------------------|---|
| Abe Manao | 阿部真直 | 出雲広貞とともに大同類聚方を撰す。 |
| Abe Tomonosin | 阿部友之進 | 号蔣翁，本草家稻生若水と時代を同じうす。明
国に在ること19年，採葉記その他の著書あり。
1753 (88才) |
| Abe Ziuntei | 阿部順貞 | 兒科。1676 死 |
| Adati Buntarō | 足立文太郎 | 京大解剖学教授，1930 恩賜賞。 |
| Adati Tiōsiun | 足立長嵩 | 蘭方の大家，医方研義 (1831)，西洋産科などの
著あり，西洋産科の嚆矢ならん。1836 (62才) |
| Adati Yutaka | 足立寛 | 外科，陸軍々医監，東大別課医学教授。1917
(76才) |
| Adioka Sanpaku | 味岡三伯 | 饗場東庵の門，1655年頃，門人井原道閑，浅井
周伯，小川朔庵などと素問，靈枢を講ず。 |
| Aeba Tōan | 饗場東庵 | 曲直瀬玄朔の門，経脈發揮の著あり。1615-
1673 |
| Akagi Yasakiti | 明城彌三吉 | 東北大婦人科名誉教授。 |
| Aki Dōzio | 安芸道恕 | 歴世尙薬列伝 (1867) の著あり。 |
| Aki Morisada | 安芸守定 | 足利義詮の時代 1358 典薬となる，女科の祖と
云わる。 |
| Akiba Tomoitirō | 秋葉朝一郎 | 東大細菌学教授。 |
| Akiyama Gisiu | 秋山宜修 | 眼科，銀海試要 (1776) の著あり。 |
| Almeida, Louis | アルメー
ダ，ルイス | ポルトガル人，サビエル来朝の次年 1556?
大友宗麟の救済院創設に与かる。 |
| Amaya Senmatu | 天谷千松 | 京大生理学教授。 |
| Anderson William | ウィリアム，
アングルソン | イギリス医，海軍々医学校教師として 1873-
1880 在日。 |
| Aoki Kaoru | 青木薫 | 東北大細菌学教授。1938 (62才) |
| Aoki Konyō | 青木昆陽 | 蘭学家，前沢良沢などの師。 |
| Aoki Siuhitu | 青木周弼 | 宇田川榛齊の門，病理学，診断学の先駆，察病
龜鑑 (1857) を著わす。 |
| Aoti Rinsō | 青池林宗 | 気海観瀾 (物理書，1826) を著わす，宇田川榛
斎，杉田玄卿などと交友，川本幸民の岳父。
1833 (59才) |
| Aoyama Tanemiti | 青山胤通 | 東大内科教授，1894 香港にてペスト研究中感
染，幸に治癒す。1917 (59才) |

- Aoyama Tetuzô 青山 徹 蔵 東大外科教授。
Arai Hakuseki 新井白石 蘭学を青木昆陽に学ぶ、前野良沢に先だちて洋学の必要を唱う、西洋紀聞(1709)、采覧異言(1712)などの著あり。1725(69才)
- Araki Torasaburô 荒木寅三郎 京大生化学教授、京大総長。根柢顧問官。
Arasiyama Hoan 嵐山甫安 本姓半田、後に嵐山と改む、外科、紅夷外科家伝の著あり。1693(61才)
- Arima Eizi 有馬英二 北大内科教授。
Asada Gôritu 麻田剛立 綾部正庵とも云う、豊後杵築藩医を致仕し、大坂に住す、殊に天文、曆教に精し、1762年官曆の誤を指摘し、そのために幕命によりて門下が訂正す。1799(55才)
- Asada Sôhaku 浅田宗伯 号栗園、明治時代の漢方の大家、皇国名医伝、傷寒并要などの著あり。1894(81才)
- Asahi Kenkiti 旭 憲 吉 九大皮膚科教授。1930(50才)
Asai Siuhaku 浅井周伯 味岡三伯門の四傑の一人、周伯切紙之弁を述ぶ俗に称して阿佐井婦人科と云う、民国の医書大全を反刻す、板刻医書の始めなりと云う。(1525年頃)
Asai Sôzui 阿佐井宗瑞
- Asai Tonan 浅井 図 南 後世派と古方家とを折衷せり、鍼に精し、扁倉伝の著あり。1782(79才)
- Asayama Ikuzirô 浅山郁次郎 京大眼科教授。1915(53才)
Azuma Katutake 吾妻勝剛 京大婦人科教授。1923(57才)
Azuma Riutarô 東 龍太郎 東大薬理学教授、厚生省医務局長。

D

- Dohi Keizô 土肥 慶 蔵 東大皮膚科教授。1931(66才)

E

- Eisei 柴 西 入唐僧、京都建仁寺開山、喫茶養生記を著せり。
Ema Ransai 江馬 蘭 齊 号春巖、1795年47才のとき前野良沢の門に入る。五液診法を著わし、蒸気装置を作る、幕府医学館講師。1839(92才)
- Emi Sampaku 恵美三伯 吉益東洞と交友あり、奥村良竹の吐方を用う、医経論説その他の著あり。1781(75才)

Ermerins エルメレンス 大阪医学校教師，原病学通論を著し邦訳あり。
(1847刊) 来朝は 1870-1878.

G

Geerts A.J.C. ゲールツ (ヘルツも云う) 京都司薬場監督. 1882 (40才)

Gekko 月 湖 明国に入り医を学びかつ業とした，李朱学派を修めた，12年後帰朝，済陰方，全九集などの著あり。(1500年前後)

Gierke, Hans P.B. ギールケ 東大解剖学教師。(1887-1890 在任)

Gonda Naosuke 権田直助 古医法家. 1887 (79才)

Gotô Boan 後藤慕庵 良山の孫，良山の説を奉じ，東洞の一毒説を排せり。

Gotô Konzan 後藤良山 名古屋女医の説をつぎたる古方家，温泉医学を研究せり，香川修徳の師. 1659-1733

Gotô Motonosuke 後藤元之助 九大生化学教授。

Gotô Risiun 後藤梨春 物産学の大家，稻生若水と伯仲す. 1771 (75才)

Gotô Sinpei 後藤新平 愛知県立病院長，衛生局長，台湾民政長官，内務大臣. 1929 (73才)

Gotô Tin-an 後藤椿庵 良山の子，父の説を広め，家学を振興す. 1378 (43才)

Gratama K.W. ハラタマ オランダ人，1865 長崎精得館教師。

H

Habu Genseki 土生玄碩 眼科，シーボルト門，1828年葵紋服の獄により閉門，後に宥さる。1854 (87才)

Haguri Yoku 羽栗翼 母は唐人の女，医を学び，良医と称せらる。1789 死

Hamada Gentatu 浜田玄達 東大婦人科教授。1915 (62才)

Hananoi Yūnen 花野有年 和方家にして蘭学を橋本宗吉に学ぶ。1865 (57才)

• Hanaoka Seisui 華岡青洲 漢蘭折衷の外科新紀元を開く，麻沸湯を用いて全身麻酔を行えり，著書は多く門人の筆に成る。1835 (76才)

Hanawa Yasutomo 塙安友 児科，道閑と称す。1629 (74才)

- Handa Ziun-an 半田順庵 沢野忠庵(ポルトガル人)の門、後アモイに行き業を修む、外科。
- Hara Nan-yô 原南陽 軍陣衛生に関する「碧草」の著あり。1820(68才)
- Hara Siô-an 原松庵 小浜藩医、山脇東洋の解屍に与かる。1786(82才)
- Haratama Gratama を見よ。
- Hasebe Genzin 長谷部言人 東大解剖教授、東北大教授、後に東大人類学教授。
- Hasegawa Hidezi 長谷川秀治 東大教授。(伝研所長)
- Hasegawa Tai 長谷川泰 大学東校舎長、衛生局長、済生学会創立。1912(71才)
- Hasegawa Tosio 長谷川敏雄 東大婦人科教授。
- Hasida Kunihiko 橋田邦彦 東大教授、一高校長、文部大臣 1945(64才)
- Hasimoto Nagatuna 橋本長綱 福井藩医、綱常と左内との父。1852(48才)
- Hasimoto Sôkiti 橋本宗吉 大槻玄沢門、蘭学の教を乞うもの甚多し。1836(74才)
- Hasimoto Tunatune 橋本綱常 東大別課医学外科教授、陸軍々医総監。1909(65才)
- Hata Iriû 畑惟龍 医林伝(1882)を著わす。
- Hata Kôzan 畑黄山 名は惟知、柳安と称す、斥医断を著わし東洞の説を駁す。1804(84才)
- Hata Sahatirô 秦佐八郎 北里研究所副所長、Ehrlich とともに 606号を創製。1938(66才)
- Hata Sôha 秦宗巴 吉田宗桂及び曲直瀬道三の門、著書あり。1607(58才)
- Hayami Takesi 速水猛 京大病理学教授。1923(51才)
- Hayasi Haruo 林春雄 東大薬理学教授、学術研究会議長。
- Hayasi Itinosin 林市之進 1600年頃靈場東庵等と素問、靈枢を講す。
- Hayasi Ki 林紀 研海とも称した、陸軍々医総監、パリにて客死 1882(39才)
- Hayasi Seitan 林正旦 導引体要の著あり。(1648?)
- Hayasi Tôkai 林洞海 竹内玄洞、坪井信良、伊藤貫斎とともに蘭方医として幕府医官となる、足立長馬の門。1894(83才)
- Hazama Sôgen 羽佐間宗玄 児科、蘭方を多く用いた、老婆心畫の著あり。
- Hida Sitirô 肥田七郎 陸軍々医、わが国のレ線医学の開発に功あり。1924(53才)
- Hikidi Kian 匹地喜庵 鍼術、明人孫周より伝わると云う。
- Hiraga Gennai 平賀源内 風来山人と称えた、物理学に精しく 1759年頃エレキテル、温度計などを造り、物産会を開いた。1779(54才)

- Hirai Ikutarō 平井誠太郎 京大小児科教授，昭和7年恩賜賞。
- Hirai Masatogu 平井政道 陸軍々医総監，日本赤十字病院長。
- Hirakō Goiti 平光吾一 九大解剖学教授。
- Hirano Genriō 平野元良 養生科，瀝水法を唱えた，坐遊必研，(1830) 病家須知(1831)などの著あり。
- Hirose Genkiō 広瀬元恭 坪井誠斎の門，医学以外にも兵制，砲術などに精し，著書甚多く，種痘宣伝に力を用いた。1870(50才)
- Hirose Kōzaburō 広瀬孝三郎 東大衛生工学教授。
- Hirota Nagasi 弘田長 東大小児科教授。1927(70才)
- Hiruta Kokumei 蛭田克明 蛭田流産科を称えた 1817(73才)
- Hitomi Gentoku 人見玄徳 児科。
- Honda Tadao 本多忠夫 外科，海軍々医中将，海軍々医学学校長，癌研究会々頭。1928(71才)
- Honma Kiōken 本間暁軒 杉田玄郷，原南洋，華岡青洲，シーボルトの門著書多し。1872(69才)
- Honziō Huiti 本庄普一 長崎にて眼科を修む，また桂川甫賢(6代)の門にあり，眼科に巧なり，時計で脈測することを唱えた，脈論，眼科錦囊などの著あり。
- Hosino Riō-etu 星野良悦 刑余の死体につき木骨を作り，精巧を極む，後にこれを幕府に獻す。1802(49才)
- Hōzawa Susumu 朴沢進 北大生理学教授。
- Hukane Hozin 深根輔仁 養生方，掌中要方(918年)，和名本草(最古のわが国の本草書)などの著あり。
- Hukuda Kunizō 福田邦三 東大生理学教授。
- Hukuda Tamotu 福田保 東大外科教授。
- Hukuda Tokusi 福田得志 九大生理学教授。
- Hukui Hūtei 福井楓亭 集驗良方を著わす，古方を取るも趣を異にす，幕府医官に用いらる。
- Hunakosi Keiyū 船越敬佑 号錦海，徳瘡業談(1843年)，絵本蠱毒軍談など梅毒に関する著あり，治法には水銀薬劑を重く用いた。
- Hurubayasi Kengi 吉林見宜 曲直瀬正純の門，著述多し，1657(79才)
- Hurubekki (Verbeck) フルベッキ オランダ系米国人，医にあらざるも明治初年大学制度改革の際，文部省に有力なる進言をなし，今日の医学制度の基をなせり。
- Huruhata Tanemoto 古畑種基 東大法医学教授。
- Huse Gennosuke 布施現之助 東北大解剖学教授。
- Hutaki Kenzō 二木謙三 東大内科教授，昭和4年恩賜賞。
- Huzibayasi Riōhaku 藤林良伯 治療上に按導導引の必要なることを論述せり。

Huzibayasi Sinzan	藤林晋山	海上随鷗の門、蘭学を提唱せり、西医今日方、病理真源などの著あり。1836 (56才)
Huzikawa Yû	富士川游	医史学家、1912 恩賜賞。1940 (70才)
Huzinami Kan	藤浪 鑑	京大病理学教授、大正7年恩賜賞。1934 (65才)
Huzita Tunetaro	藤田恒太郎	東大解剖学教授。
Huzita Toshihiko	藤田敏彦	東北大生理学教授。

I

Ihara Dôetu	井原道閑	素間。壺棺に精通す。1780 (72才)
Iinuma Yokusai	飯沼慾齋	名長順、本草は小野蘭山の門、医は福井丹波守の門、後に宇田川榛齋に学ぶ、本草に通ず、本草図説 (1856) の著あり。1865 (84才)
Ikeda Huyuzô	池田冬蔵	号復堂、小森桃場の門、1821年解屍を行つた。1836 (52才)
Ikeda Kensai	池田謙齋	長崎精得館頭取、侍医局長。1918 (67才)
Ikeda Kiôsui	池田京水	瑞仙の子、病弱なりしも痘科に秀ず。
Ikeda Masanao	池田正直	嵩山と号す、瑞仙の曾祖父、明の戴曼公より痘科の教を受く (1650年頃)。1677 (81才)
Ikeda Mukei	池田霧溪	瑞仙の養子、痘科、幕府医学館教授。1857 (77才)
Ikeda Yô-iti	池田陽一	婦人科、早くから無菌の開腹術を盛んに行つた。1837 (80才)
Ikeda Zuisen	池田瑞仙	錦橋と号す、正直の曾孫、痘科とオランダ外科に秀ず。1816 (?)
Ikoda Ziundô	伊古田純道	佐藤順天堂の門、秩父大宮住、わが国最初の帝王切開術を行つた (1852年4月)。1886 (85才)
Imabuti Tnehisa	今淵恒寿	九大婦人科教授。
Imamura Arao	今村荒男	阪大内科教授、阪大総長。
Imamura Sinkiti	今村新吉	京大精神病科教授。
Imaôzi Genkan	今大路玄鑑	曲直瀬玄鑑に同じ。
Imaôzi Gensaku	今大路玄朔	曲直瀬玄朔に同じ。
Inaba Bunrei	稻葉文礼	腹診科、腹識奇観 (1819) の著あり。
Inada Riukiti	稻田龍吉	九大、後東大内科教授。1950 (75才)
Inamura Sanpaku	稲村三伯	海上随鷗とも云ふ、大槻玄沢の門、江戸ハルマ 1776年刊行。1811 (57才)
Inoko Sikanosuke	猪子止戈之助	京大外科教授。
Inoko Yosito	猪子吉人	東大薬理学助教、令名あり、留学中に早世す、止戈之助の弟。1893 (28才)

- | | | |
|----------------------|--------|---|
| Inô Siôzi | 稻生正治 | 号恒軒，若水の父，古林見宜の門，蠢斯草を著わし，胎内養生を説く。1680 (71才) |
| Inô Ziakusui | 稻生若水 | 名は宣養，本草の大家，福山徳寿の門，庶物類纂 (100巻) を著わす。1715 (61才) |
| Ino-uye Katuzi | 井上嘉都二 | 東北大学医化学教授。 |
| Ino-uye Mitio | 井上通夫 | 東大解剖学教授。 |
| Ino-uye Mitiyasu | 井上通泰 | 眼科，文学殊に歌道に長ず，宮中顧問官。(死亡) |
| Ino-uye Tatui-ti | 井上達一 | 東北大医化学教授。 |
| Ino-uye Zenziûrô | 井上善十郎 | 北大衛生学教授。 |
| Irisawa Tatukiti | 入沢達吉 | 東大内科学教授，侍医頭。1938 (74才) |
| Irie Yoriaki | 入江頼明 | 鍼術入江流祖。(1500年代の中頃) |
| Isawa Ranken | 伊沢蘭軒 | 蘭軒医話，医方千丈などの著あり。1829 (53才) |
| Isibasi Siun-zitu | 石橋俊実 | 東北大精神科教授。 |
| Îsiguro Tadanori | 石黒忠愚 | 大学東校舎長，陸軍々医総監，外科通術 (1877)，軍陣外科手術 (1882) などの著あり。 |
| Isihara Hisasi | 石原久 | 東大歯科教授。(死亡) |
| Isihara Makoto | 石原誠 | 九大生理学教授。1937 (63才) |
| Isihara Sinobu | 石原忍 | 東大眼科教授，前橋医大学長。 |
| Isikawa Genziô | 石川玄常 | 蘭学者，解体新書反訳の同志の一人。1815 (92才) |
| Isikawa Hidezurumaru | 石川日出鶴丸 | 京大生理学教授。(死亡) |
| Isikawa Tomoyosi | 石川知福 | 東大公衆衛生学教授。 |
| Isisaka Tomotarô | 石坂友太郎 | 九大薬理学教授。 |
| Itasaka Daizennosuke | 板坂大膳亮 | 産前産後秘伝抄の著あり。(1616年) |
| Itasaka Sôkei | 板坂宗慶 | 卜庵と号す，甲斐徳本を師とせりと云う，家珍方 (1500年代) の著あり。 |
| Itasaka Sôtoku | 板坂宗徳 | 入神の技ありと云う，1482 大内義弘の病を治すという |
| Itasaka Tiôkan | 板坂鈞閑 | 児科，家伝小児方の著あり。 |
| Itikawa Tokuzi | 市川篤二 | 東大泌尿器科教授。 |
| Itô Genboku | 伊東玄朴 | シーボルトの門，内科，東京に同志と種痘所を設く，医療正始などの著あり。1871 (72才) |
| Itô Hayazô | 伊藤隼三 | 京大外科教授。1929 (66才) |
| Itô Hôsei | 伊東方成 | 玄朴の養子，玄伯と云う，内科，侍医。1898 (67才) |
| Itô Kansai | 伊東貫齊 | 玄朴の婿，幕府の医学所取締。1893 (68才) |
| Itô Kêsuke | 伊藤圭介 | 本草の大家，東大理科教授，学勳により男爵，泰西本草名録の著。1901 (99才) |
| Itô Minoru | 伊藤実 | 東北大皮膚科教授。 |
| Itô Sukehiko | 伊東祐彦 | 九大小児科教授。1936 (72才) |

- Iwasa Ziun 岩佐 純 大学東校の主脳として創設に与かる、後に待
医。1912 (78才)
- Iwase Yû-iti 磐瀬 雄一 東大婦人科教授。1946 (72才)
- Iwasita Kenzô 岩下 健三 北大皮膚科教授。

K

- Kaempfer, Engelbert ケンペル, (エン
ゲルベルト) 1699-1692, オランダ医官として在日, 植物図譜
を編し, その他の見聞を記述せり, ことに灸に
つき記したり。1716 (65才)
- Kagami Bunken 各務 文獻 正骨科, 木骨を作れり, 整骨新書を著わす。
1819 (65才)
- Kagawa Gen-etu 賀川 玄悦 字子玄, 産科の新生面を開き産婦に按摩を応用
せり, 産論(67才のとき)の著あり。1777 (87才)
- Kagawa Gengo 賀川 玄吾 玄悦の子, 別家す, 満郷と称し, 有斎とも云う。
産術秘要, 産道秘訣, 産術記などの著あり。
1793 (61才)
- Kagawa Nanriû 賀川 南龍 大阪に分家した賀川家の第二世。1838 (58才)
- Kagawa Rankô 賀川 蘭臯 満載と称す, 蘭台の第二子。1891 (62才)
- Kagawa Ransai 賀川 蘭齊 満定と称す, 玄吾の第二子, 探銀器を考案す。
1833 (63才)
- Kagawa Rantai 賀川 蘭臺 満崇と称す, 纏頭絹を考案せり。1862 (69才)
- Kagawa Sikei 賀川 子啓 玄旭, 初代玄悦の養嗣, 後に玄悦, 産論翼
(1775年)の著あり。1779 (41才)
- Kagawa Siû-an 香川 修庵 名は修徳, 後藤良山, 伊藤仁齋の門, 一本堂と
称す, 古医方家。1755 (73才)
- Kaibara Ekiken 貝原 益軒 著述多し, ことにカナガキの著多し, 大和本草,
養生訓, 本草綱目和名集など著述の數多し。
1714 (85才)
- Kakimoto Singen 垣本 鍼源 鍼科, 刺絡を行ふた, 菲葉鍼を考案せり。
- Kakinuma Kôsaku 柿沼 吳作 東大内科教授。
- Kaki-uti Saburô 柿内 三郎 東大生化学教授。
- Kako Kakusio 賀古 鶴所 耳鼻科, 陸軍々医監, 耳科新書の著。193。(76才)
- Kako Riôgen 加古 良玄 正骨科, 解体鍼要(1819年)の著あり。
- Kamei Nânme 亀井 南溟 名は道載, 吉益東洞の門, 後に一毒論に反対せ
り, 弁惑論, 南溟問答などの著あり。1814(72才)
- Kamon Keitarô 加門 桂太郎 京大解剖学教授。1935 (89才)

- Kanamori Torao 金森虎男 東大齒科教授。
 Kanasugi Eigorō 金杉英五郎 耳鼻科を標榜せる最初の人。
 Kanbe Sisiō 神戸子祥 腹診家、稻葉文礼の門、診腹図説 (1796年) の著あり。
- Kaneko Kiō-an 金子杏庵 産科提要の著あり。
 Kakeko Renzirō 金子廉次郎 九大内科教授。
 Kanemoti Sigehiro 金持重弘 鍼術、明国に学び、1541年帰朝。
 Kaneyasu Gentai 兼康玄泰 口科、もと丹波氏、玄泰に至り兼康を姓とす、後に金保と改め、玄泰五世の孫玄孝は更に多紀と改姓す。
- Kanroku 勘 勒 百濟の僧、医方に通ず、602年頃来朝。
 Kansin 鑿 真 唐の僧、医業に精し、後に大僧正を賜ふ。736 (77才)
- Kasahara Hakuō 笠原白翁 北陸諸國に種痘を普及した。1880 (79才)
 Kasahara Mituoki 笠原光興 京大内科教授。1913 (51才)
 Kasahara Ziuzi 笠原重次 眼科、穂積流秘伝の著 (1558年)。
 Kasima Yūsirin 賀島有信 皇朝医史の著。
 Kasimura Seitoku 榎村清徳 京大別院医学内科教師。1902 (56才)
 Kasuo Tameharu 糟尾為春 乗付玄由の子、師糟尾久牧の後嗣、産科。1637 (?)
- Katakura Kakuriō 片倉鶴陵 賀川流産科、名は元周、産科発蒙、傷寒啓微、瘰癧新書、保嬰須知などの著あり。1822 (72才)
- Katayama Kuniyosi 片山国嘉 東大法医学教授。1931 (77才)
 Katō Gen-iti 加藤元一 慶大生理学教授、昭和2年恩賜賞。
 Katō Genziun 加藤玄順 医療手引草の著あり、狂人に灌水法を用いた。(1700年代の終?)
- Katō Toyozirō 加藤豊次郎 東北大内科教授。
 Katuki Giuzan 香月牛山 名は啓益、貝原益軒、鶴原文益の門、牛山方考、後世医方、牛山活套、小児必要、老人養草など著述多し。1740 (85才)
- Katunuma Seizō 勝沼精藏 愛知大学内科教授、大正15年恩賜賞。
 Katurada Huzirō 桂田富士郎 熱帯病研究所長、大正7年恩賜賞。(死亡)
- Katuragawa Hotiku (I) 桂川甫筑 (初代) 名は邦教、嵐山甫安の門、後關医マルマンスの門、阿蘭陀外科正伝などの著あり。1747 (87才)
- Katuragawa Hotiku (II) 桂川甫筑 (二代) 初代の子、名は国華。1781 (87才)
- Katuragawa Hotiku (III) 桂川甫筑 (三代) 名は国訓、二代の子、甫三とも称す。1783 (56才)

- Katuragawa Hosiū 桂川甫周 第四代、第三代の子、名は国端、号は月池、杉田玄白、前野良沢と同志、1794幕府医学館教授。1809 (56才)
- Katuragawa Hoken 桂川甫賢 第五代、甫周の子にして国宝と云ふ。1827 (61才)
- Katuragawa Hoken 桂川甫謙 第六代にして名は国寧、甫賢とも云うた。1844 (48才)
- Kawaguti Sinnin 河口信任 師荻野元凱とともに1770年に解屍、1772年解屍編を著す。1811 (59才)
- Kawamoto Kōmin 川本幸民 足立長岡、坪井誠軒の門、1856年蕃書取調所教授、気海徳瀾など著述多し。1871 (59才)
- Kawamura Rinya 川村麟也 新潟大、慶大、病理学教授、大正13年恩賜賞。
- Kaziwara Seizen 梶原性全 頓医抄 (1303)、万安方 (1315) などの著あり
- Keisiun 恵 春 僧にして、ケリコリ (Gregoria)、ヤリイス (Louis) などの施療にて、その病を除かれ、回復し、パビアン (梅毒) と称し、布教と医療に従う、後に1586年南蛮寺の取毀しとともに踪跡を失う。
- Keiyū 恵 友 ポルトガル人ハフテイ、外科に巧なり、後に大阪に移る。
- Kenzenbō 賢 禅 坊 僧医、1177年に流行病ありたるとき治療に与かり功あり。
- Kikawabe Yosiomaro 紀河辺義男 642年新羅にて鍼を学びて帰朝せり。
- Kikuti Tunesaburō 菊池常三郎 外科、陸軍々医監、大阪回生病院長。1921 (67才)
- Kimura Dan-ya 木村男也 東北大病理学教授、宮城中央保健所長。
- Kimura Kōzō 木村孝蔵 阪大外科教授。
- Kinosita Rōziun 木下良順 阪大病理学教授。
- Kinosita Tōsaku 木下東作 阪大生理学教授。
- Kinudome Ziun-an 衣関順庵 眼科、人獣の眼を剖検せり、眼目明弁 (1810年) の著あり。
- Kirihara Sinsetu 桐原真節 東大別課医学教師。
- Kirikae Itirō 切替一郎 東大耳鼻科教授。
- Kiriyama Seitetu 桐山正哲 小塚原腑分け時代の蘭学盟友の一人。
- Kitamura Kanae 北村鼎 薩摩の人、その著吐方論に精神病について述ぶ。
- Kitamura Kanehiko 北村包彦 東大皮膚科教授。
- Kitao Siunpo 北尾春甫 診科、察病精義の著。
- Kitasato Sibasaburo 北里柴三郎 細菌学上の成績は挙ぐるに遑なし、北里研究所長、日本医師会長。1931 (80才)
- Kitasima Taiti 北島多一 細菌学者、北里の後継者、慶大医学部長、北研所長。